

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧  
P.2-3

<31週> 流行性耳下腺炎・咽頭結膜熱 - 定点当たり報告数は最近10年間の同時期と比較して最大 / その他最新動向



注目すべき感染症  
P.4

<腸管出血性大腸菌感染症> 第31週時点での累積報告数は2,212  
<ヘルパンギーナ> 第31週の報告数は9,976で、定点当たり報告数は3.31



病原体情報  
P.5

患者から分離・検出された病原体報告 - Vero毒素産生性大腸菌 / 咽頭結膜熱 / 流行性角結膜炎 / インフルエンザウイルス



速報  
P.6

ヘルパンギーナ患者からのウイルス分離状況 - 奈良県



海外感染症情報  
P.7

ニューヨーク市で今年初めての西ナイルウイルス感染患者発生 - 米国 / ノルウェーのライム病 / 他



感染症の話  
P.8-10

伝染性紅斑  
両頬がリンゴのように赤くなることから、「リンゴ(ほっぺ)病」と呼ばれることもある



読者のコーナー  
P.11-12

ビブリオ・バルニフィカス感染症の診断などについて



グラフ総覧(31週)  
P.13-19



31週のデータ  
P.20-27



# 発生動向総覧

第31週コメント 8月10日集計分

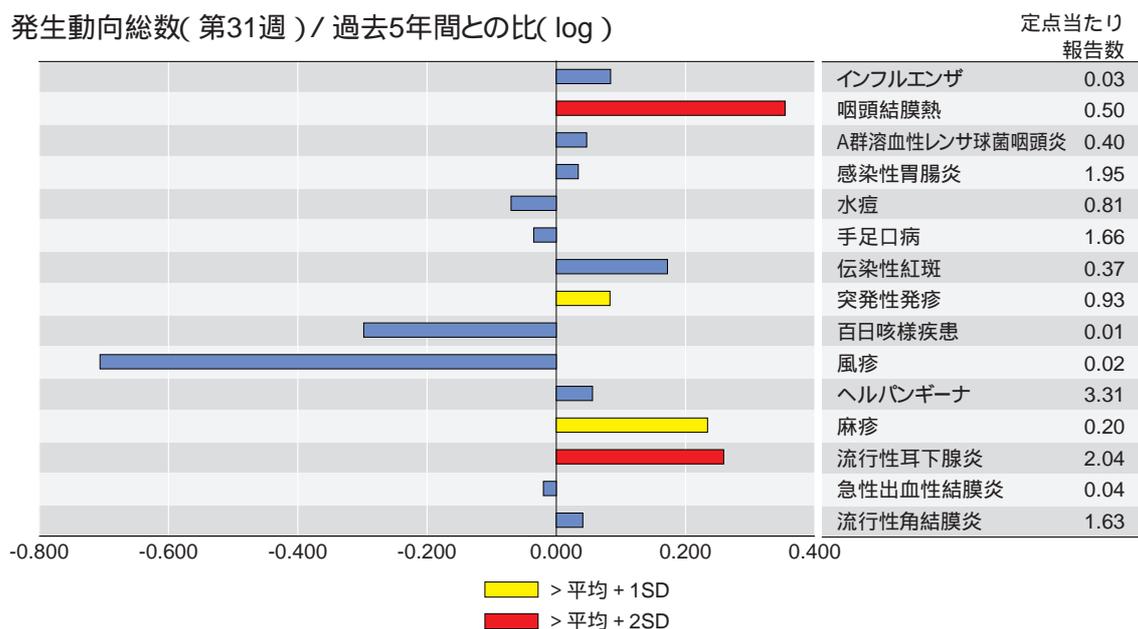
## 全数報告の感染症

- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: 細菌性赤痢18例( 推定感染地: 国内6例、中国5例、タイ3例、インド、インドネシア、カンボジア、国外不明各1例 )、腸チフス1例( 推定感染地: 不明 )
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症332例( 詳細は4ページ「注目すべき感染症」参照 )
- 4類感染症: アメーバ赤痢6例、オウム病1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、ジアルジア症3例、日本紅斑熱2例( 高知県で家族内発生 )、破傷風1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例
- 急性ウイルス性肝炎6例
  - A型4例
  - B型2例\_\_感染経路: とともに不明
- クロイツフェルト・ヤコブ病3例( 孤発性2例、家族性1例 )
- 後天性免疫不全症候群11例( AIDS 3例、無症候性キャリア7例、その他1例 )
  - 感染経路: 性行為10例( 異性間4例、同性間6例 )
  - 不明1例
- デング熱1例( 推定感染地: フィリピン )、梅毒8例( 早期顕症2例、無症候6例 )

## 定点把握の対象となる4類感染症( 週報対象のもの )

流行性耳下腺炎は、最近10年間の同時期と比較して最大の定点当たり報告数が13週間続いている。都道府県別では石川県6.83、福岡県5.10、佐賀県4.87などの報告がある。咽頭結膜熱は、最近10年間の同時期と比較して最大の定点当たり報告数が2000年第41週から続いている。都道府県別では群馬県1.38、長野県1.07、三重県1.04などの報告がある。麻疹、突発性発疹などの定点当たり報告数は、過去5年間の同時期と比較してやや多くなっている。

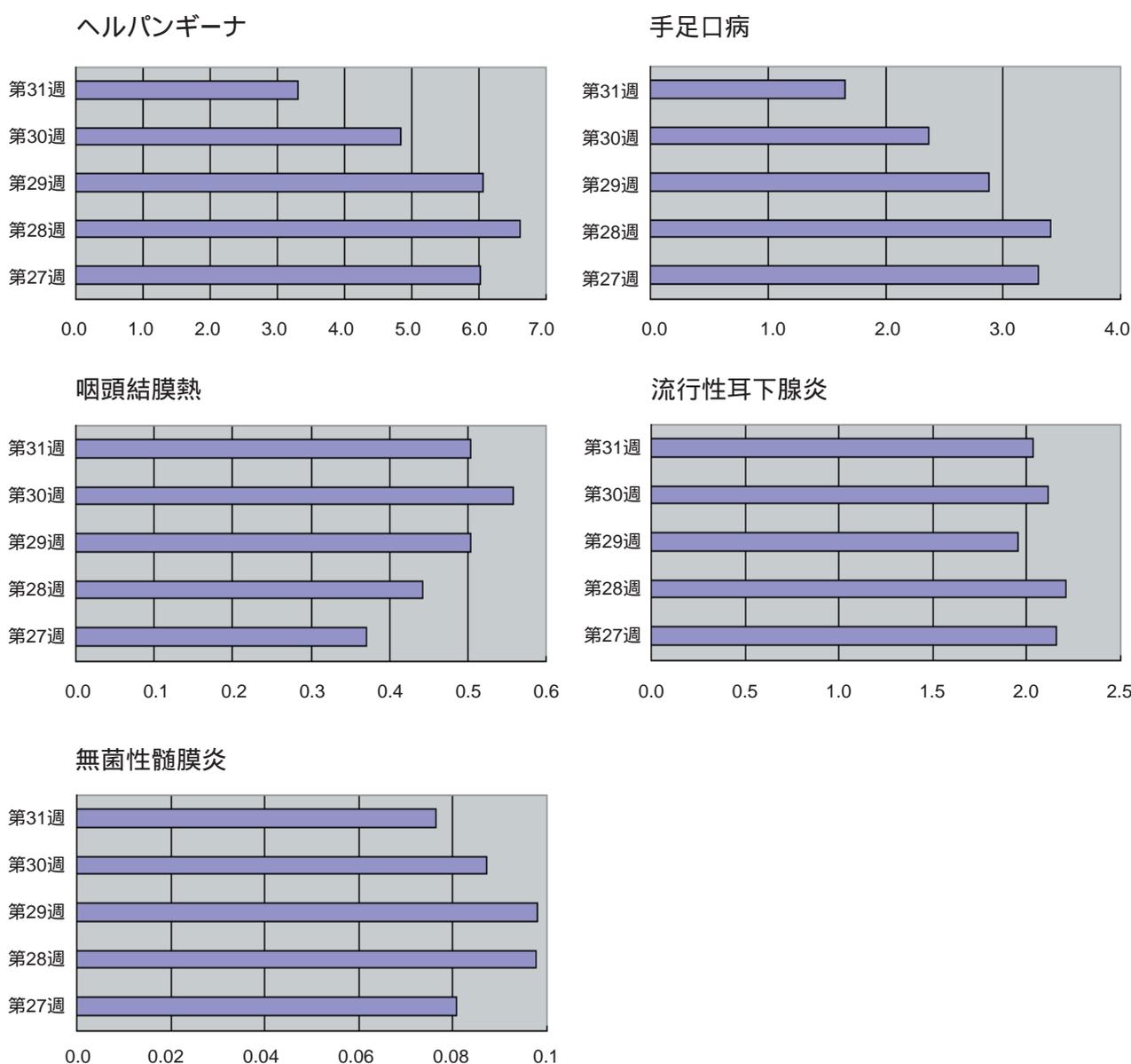
発生動向総数( 第31週 ) / 過去5年間との比( log )



当該週と過去5年間の平均( 過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均 ) の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

## 最近の注目疾患－5週間の動き

ヘルパンギーナ、手足口病、咽頭結膜熱、流行性耳下腺炎、無菌性髄膜炎などの定点当たり報告数は、いずれも前週に比べて減少した。ヘルパンギーナについては4ページ「注目すべき感染症」を参照。手足口病については、第28週をピークとしてその後3週間は毎週減少している。咽頭結膜熱については、第19週より増加傾向を示してきたが、第30週にピークを形成し、第31週には減少した。流行性耳下腺炎については、第19週より増加傾向を示してきたが、第28週にピークを形成し、その後はゆるやかな減少傾向にある。



(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数(報告総数/定点総数)を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。

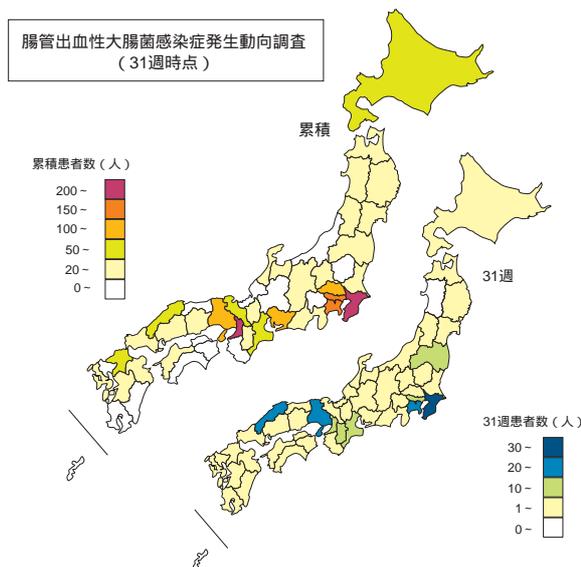


# 注目すべき感染症

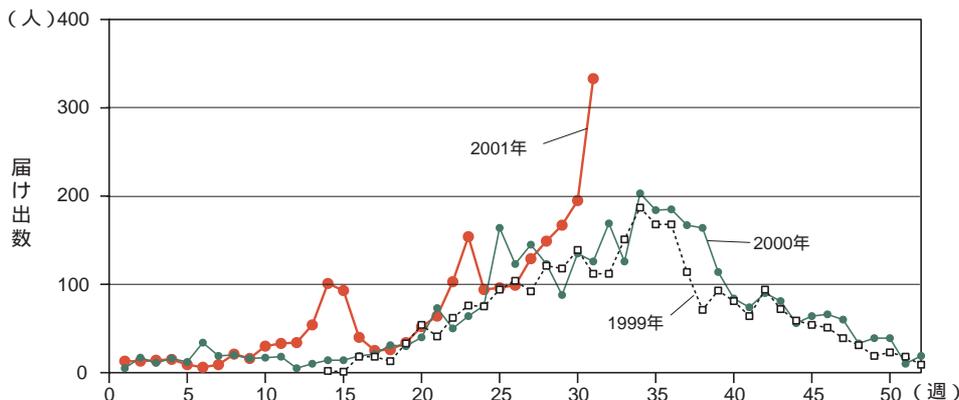
## 腸管出血性大腸菌感染症流行状況

2001年には早期から多数のO157感染症が広域発生した影響で、昨年に比べ患者報告数が早い時期から多くみられている。第31週の報告数は332で、1999年4月の感染症法施行以来、週当たりの報告数としては最大である。都道府県別では千葉県、島根県、神奈川県からの報告が多くなされている。菌のタイプとしてはO157( VT1+VT2、あるいはVT2 )以外に、O26( VT1 )も急増している。

第31週時点での本年の累積報告数は2,212であり、都道府県別では千葉県、大阪府、神奈川県などから報告が多くなされている。本年度の累積報告数を5歳刻みの年齢階級別にみると、0～4歳435、5～9歳314、10～14歳208の順であるが、他の年齢層でも一定の割合で発生が見られる( 検出された病原体については5ページを参照 )。



腸管出血性大腸菌感染症(無症状保菌者含む)届け出状況



## ヘルパンギーナ流行状況

主にA群コクサッキーウイルス、B群コクサッキーウイルス、稀にはエコーウイルスなどを病因とし、発熱、特徴的な咽頭所見を呈する疾患である。1～4歳に多く、その発生は6～8月に増加し、通常は7月頃にピークを形成する。感染症発生動向調査では、全国約3,000の小児科定点より毎週報告がなされている。

第31週の報告数は9,976で、定点当たり報告数は3.31である。本年に関しては第28週をピークとし、その後は週毎に減少の一途をたどっている。また、第31週時点での本年の累積報告数は114,395で、定点当たり累積報告数は38.08である。累積報告数について1歳刻みの年齢階級別にみると、1歳24,588、2歳21,738、3歳18,552の順である。また、定点当たり累積報告数を都道府県別にみると、広島県77.97、徳島県69.57、福島県67.48の順である( 検出された病原体については5ページを参照 )。



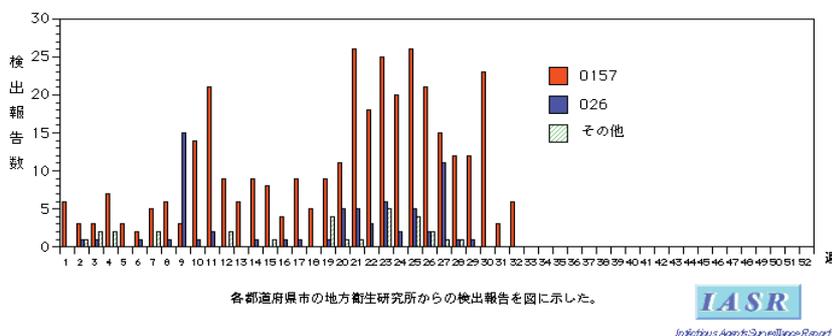
## 病原体情報

\*グラフはIASRホームページ( <http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html> )からの引用です。  
( 2001年8月10日現在報告分 )

### ヒトから分離されたVero毒素産生性大腸菌O157およびO26検出報告 2001年

本年のVero毒素産生性大腸菌の検出総数は、O157が350件、O26が67件である。第26週～27週にかけて、島根県で発生した集団発生事例からO26が10件報告され、第32週には同じく島根県から家族内発生によりO157が6件報告された。最近では、O157が第29週に12件、第30週に23件( 島根県12、佐賀県4、熊本市3、函館市2、東京都、堺市各1 )、第31週3件( 島根県 )、第32週6件( 島根県 )、O26が第29週に1件( 京都市 )の報告があった。

週別Vero毒素産生性大腸菌検出報告数、2001年 (病原微生物検出情報: 2001年8月10日現在報告数)



### 咽頭結膜熱患者から分離されたウイルス 2001年

本年第19週以降に分離報告されたウイルスは、アデノウイルス3型51件( 仙台市19、長野県13、新潟県7、東京都3、滋賀県、兵庫県、札幌市、石川県、愛知県、福岡市、岡山県、山梨県、愛媛県各1 )、4型4件( 兵庫県2、福岡市1、新潟県1 )、2型17件( 仙台市10、長野県2、兵庫県2、新潟県、岡山県、福岡県各1 )、1型3件( 広島市2、熊本市1 )、7型2件( 北九州市 )、5型3件( 兵庫県、仙台市、北九州市各1 )である。

### 流行性角結膜炎患者から分離されたウイルス 2001年

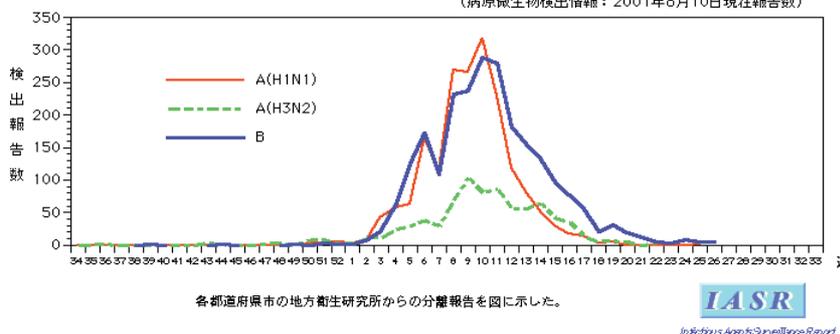
本年第19週以降に分離報告されたウイルスは、アデノウイルス3型8件( 長野県2、愛知県2、札幌市、熊本県、茨城県、東京都各1 )、37型6件( 熊本県3、札幌市、長野県、岡山県各1 )、19型5件( 札幌市、山形県、大阪府、岡山県、広島市各1 )、8型3件( 茨城県2、横浜市1 )、2型1件( 京都市 )、6型1件( 長野県 )である。

### インフルエンザ 2000/2001シーズン(まとめ)

2000/2001シーズンのインフルエンザウイルス分離報告をまとめると、A/香港(H3N2)型が795件、A/ソ連(H1N1)型が1,856件、B型が2,346件報告された。各型の最初の分離日(報告機関)およびピークの週は、A/香港型が2000年9月4日(第36週; 広島県)、2001年第9週、A/ソ連型が9月25日(第39週; 横浜市)、第10週、B型が9月25日(第39週; 沖縄県)、第10～11週であった。分離・検出の最後に関しては今のところ、A/香港型は2001年6月1日(第22週; 京都市)、A/ソ連型は6月21日(第25週; 横浜市)、B型は6月26日(第26週; 長野県)であり、以後は報告がない。

週別型別インフルエンザウイルス分離・検出報告数の推移、2000/2001シーズン

(病原微生物検出情報: 2001年8月10日現在報告数)





## ヘルパンギ - ナ患者からのウイルス分離状況 - 奈良県

ヘルパンギ - ナと診断された患者の咽頭ぬぐい液33件( 検体採取5月7日 ~ 7月12日 )から、A群コクサッキー - ウイルス( CA )2型10株、CA10型4株、CA6型2株、B群コクサッキーウイルス( CB )5型4株、CB4型1株を分離同定した。ウイルス分離は、RD-18S、HEp-2、MA-104細胞と乳のみマウスを使用した。同定は、デンカ生研製の抗血清による中和試験、及び国立感染症研究所分与の免疫マウス腹水による補体結合反応試験により行った。CAは乳のみマウス( 接種後4 ~ 5日で麻痺発症 )、CBはHEp-2、MA-104細胞で分離された。CA10型は県北部、CA2型は県中部を中心に分離される傾向にあった。分離同定された患者で発熱は全例にみられ、38 台3名、39 台15名、40 台3名であった。なお、本県の感染症発生動向調査によるヘルパンギ - ナ発生状況は、5月末の第22週( 1.29人/1定点あたり )から増加がみられ、6月末の第26週( 6.29人 )より急増し、7月中旬の28週( 8.51人 )をピークに以後減少傾向にある。

奈良県衛生研究所

足立 修 北堀吉映 田口和子 立本行江 青木喜也

( IASR2001年9月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照 )



## 海外感染症情報

\* 関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ( <http://www.forth.go.jp/> )をご覧ください。

### ニューヨーク市で今年初めての西ナイルウイルス感染患者発生 - 米国

New York City Department of Health( Press Release ) 2001年8月11日

ニューヨーク市保健局は、スタッテン島の73歳女性が血液検査により西ナイルウイルス陽性であると発表した。血液検査によって、この症例は急性期( 最近の感染 )のもので、昨年の感染ではないことがわかった。検体は確認のためにニューヨーク州保健局に送られる予定である。今年フロリダで2名のヒト症例が発生しているが、ニューヨーク市ではこの症例が2001年で初めての西ナイルウイルス感染患者である。

### チャドでコレラ流行 - 更新

WHO/CSR 2001年8月6日

8月6日までにWHOは、死亡患者33例を含むコレラ患者1,111例を報告した。患者の大部分がN'djamena地区( 患者921例、死亡27例 )で発生しているが、他にMassakoryで死亡5例を含む患者156例、Bongoで死亡1例を含む患者24例、BoIで患者10例が発生している。

### ルウェーのライム病

Eurosurveillance weekly 2001年8月9日

ルウェーでは、ライム病( ライムボレリア症 )は1980年代の初めから感染症告知システム( Meldingssystem for smittsomme sykdommer, MSIS )への報告を求められてきた。最初はこの分野に特別な関心を持っている少数の医者のみが症例を報告していた。1989年に国立公衆衛生研究所( National Institute of Public Health, NIPH )は、遊走性紅斑を含むライム病の患者すべてを報告するよう臨床医に要請した。この結果、報告された発生数が大幅に増加し、ピークは1992年の400症例以上であった( 発生率はおよそ10万につき9例 )。1992年にはダニの数が平年と比べてかなり高値を示した。1995年には感染症制圧法( Infectious Disease Control Act )の実施に伴って、ライム病の報告が慢性期および全身性のライム病だけとなった。その結果、ライム病の報告数は年間130 ~ 180症例と減少した。

2000年には、感染症告知システムに138例のライム病患者の報告があった。1999年には146例、1998年には179例、1997年には143例であった。2000年の発生数は10万人につき3人であり、遊走性紅斑の全例が報告されていた時期の約1/3に相当している。2000年に報告された138例のうち、86例( 62% )が男性で、52例( 38% )が女性であった。中央値は48歳であった。また、0 ~ 9歳( 患者の20% )の年齢グループに好発し、青年には少なかった。

2000年の報告による症状は、慢性萎縮性先端皮膚炎が4例( 3% )、神経疾患が122例( 88% )で、その中では顔面神経麻痺が最も報告が多かった。関節炎が24例( 17% )、それ以外の症状が29例( 21% )であった。それ以外の症状の中には心臓の病変がある。多くの患者に2つ以上の症状があった。90例( 65% )の患者が入院したが、死亡例は報告されていない。患者のうち80例( 58% )が特異的なIgM抗体( IgM単独かIgGとの組み合わせ )の検出によって診断された。58例( 42% )がIgG抗体のみで診断された。

NIPHは国民と医療従事者にライム病の予防方法に関する助言を行ってきた。しかしながらライム病は今なお、流行地である程度の健康上の問題として持続している。



## 感染症の話

### 伝染性紅斑

伝染性紅斑( erythema infectiosum )は第5病( the fifth disease )ともよばれ、頬に出現する蝶翼状の紅斑を特徴とし、小児に多くみられる流行性発疹性疾患である。両頬がリンゴのように赤くなることから、「リンゴ( ほっぺ )病」と呼ばれることもある。本症の病因は長く不明であったが、ヒトパルボウイルスB19( human parvovirus B19: 以下B19 )であることが明らかにされた。病因が明らかになるのに伴って、本症の周辺には多くの非定型例や不顕性感染例があること、多彩な臨床像があることなども明らかになった。

#### 疫学

感染症発生動向調査によると、ほぼ5年ごとの流行周期で発生数の増加がみられ、2001年は過去10年間で比較すると1992年に次ぐ大きな発生となっている。年によって若干のパターンの違いはあるものの、年始から7月上旬頃にかけて症例数が増加し、9月頃症例が最も少なくなる季節性を示す。流行が小さい年には、はっきりした季節性がみられないこともある。患者の年齢分布は5～9歳での発生がもっとも多く、ついで1～4歳が多い。成人における発生状況は、感染症発生動向調査の対象外であるため詳細は不明であるが、臨床の場ではしばしば成人例に出会うことはあり、看護学生・看護婦などの病院内感染による成人集団発生事例も報告されている( 病原微生物検出情報、Vol.12 No.7,1991、Vol.18 No.12,1997参照 )。

#### 病原体

原因ウイルスは単鎖DNAウイルスであり、パルボウイルス科パルボウイルス亜科エリスロウイルス属に属するヒトパルボウイルスB19である。ウイルスのレセプターは赤血球膜表面にあるP抗原であり、P抗原保有細胞、とくに赤芽球前駆細胞に感染し、増殖する。

#### 臨床症状

10～20日の潜伏期間の後、頬に境界の鮮明な紅い発疹( 蝶翼状 - リンゴの頬 )が現れ( 写真1 )、続いて手・足に網目状・レ - ス状・環状などと表現される発疹がみられる( 写真2 )。胸腹背部にもこの発疹が出現することがある。これらの発疹は1週間前後で消失するが、中には長引いたり、一度消えた発疹が短期間のうちに再び出現することがある。成人では関節痛・頭痛などを訴え、関節炎症状により1～2日歩行困難になることがあるが、ほとんどは合併症をおこすことなく自然に回復する。なお、頬に発疹が出現する7～10日くらい前に、微熱やかぜ様の症状などの前駆症状が見られることが多いが、この時期にウイルス血症をおこしており、ウイルスの排泄量ももっとも多くなる。発疹が現れたときにはウイルス血症は終息しており、ウイルスの排泄はほとんどなく、感染力はほぼ消失している。



写真1. 両側の頬に出現した蝶翼状の発疹

伝染性紅斑は当初異型の風疹として発表され、その後独立疾患であることが確立された。これまでも伝染性紅斑と風疹の流行時期は重なることが少なくなく、典型的な伝染性紅斑では臨床診断を誤ることはないが、非典型例では風疹との鑑別が困難である。英国において行われた血清調査では、風疹と診断された患者の半数がB19感染であったことが述べられている。成人では典型的な発疹を伴う頻度が低く、風疹と診断されている例が小児より多いと推察される。



写真2. 上肢伸側に出現した発疹

・B19感染像の拡がり - 伝染性紅斑のみではないB19感染症

伝染性紅斑とは典型的なB19感染症の臨床像であるが、B19感染症の臨床像は単に伝染性紅斑にとどまらない。溶血性貧血患者がB19感染を受けると重症の貧血発作( aplastic crisis )を生ずることがあり、その他にも関節炎・関節リウマチ、血小板減少症、顆粒球減少症、血球貪食症候群( VAHS/HPS )、免疫異常者における持続感染などの存在も知られるようになってきた。

・胎児感染 - 胎児水腫( IASR Vol.19 No.3, 1998参照 )

B19感染症で注意すべきものの一つとして、妊婦感染による胎児の異常( 胎児水腫 )および流産がある。妊娠前半期の感染の方がより危険であり、胎児死亡は感染から4～6週後に生ずることが報告されているが、妊娠後半期でも胎児感染は生ずるとの報告もあり、安全な時期について特定することはできない。しかし一方では、妊婦のB19感染が即胎児の異常に結びつくものではなく、伝染性紅斑を発症した妊婦から出生し、B19感染が確認された新生児でも、妊娠分娩の経過が正常で、出生後の発育も正常であることが多い。さらに、生存児での先天異常は知られていない。したがって妊婦の風疹感染ほどの危険性は少ないが、超音波断層検査等で胎児の状態をよく把握することが必要である。

・血漿分画製剤とB19感染リスク

厚生省薬務局発医薬品副作用情報No.141によると、今般、各種血漿分画製剤中にB19DNAがPCR法で検出されたとする文献が企業より報告された。B19は他のウイルスに比べて加熱やフィルタ-などによる不活化・除去が容易でないため、製剤中への混入の可能性を否定し得ないこと、また、本ウイルス感染症が一般的には予後良好であるものの、一部の患者に感染した場合には重篤な症状を招くことがあるとされているため、血漿分画製剤の使用上の注意事項を変更し、ことに妊婦、溶血性・失血性患者、免疫不全患者、免疫抑制状態の患者に対する使用にあたって注意を喚起している。なお免疫グロブリン製剤については、製剤中の抗体によって感染性が失われている可能性も考えられるが、そのことを示す十分な根拠がないため、他の製剤と同様に使用上の注意事項を変更している。

### 病原診断

ウイルスを分離することが病原診断の基本であるが、B19のウイルス分離培養は困難である。PCR法による遺伝子の検出も可能であるが、B19を対象にする場合、健康保険による診療での制約がある。したがって、殆どの場合血清学的診断を行うが、ペア血清について酵素抗体法( ELISA )により特異的IgG抗体の上昇を確認するか、あるいは、急性期に特異的IgM抗体を検出することで診断する。

### 治療・予防

特異的な治療法はなく、対症療法のみである。免疫不全者における持続感染、溶血性貧血患者などでは -グロブリン製剤の投与が有効なことがある。

前述したとおり、紅斑の時期にはほとんど感染力がないので、2次感染予防の必要はない。また、ウイルス排泄期には特徴的な症状を示さないため、実際的な2次感染予防策はない。現在のところワクチンはない。妊婦などは、流行時期にはカゼ様患者に近づくことを避け、万一感染した場合には、胎児の状態を注意深くフォローする。

### 感染症法における取り扱い

伝染性紅斑は4類感染症定点把握疾患であり、その報告は全国約3,000カ所の小児科定点より週毎に届けられる。報告のための基準は以下の通りである。

診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の2つの基準を満たすもの。

1. 左右の頬部の紅斑の出現
2. 四肢の網目状の紅斑の出現

上記の基準は必ずしも満たさないが、診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、病原体診断や血清学的診断によって当該疾患と判断されたもの。

### 学校保健法における取り扱い

伝染性紅斑は学校において予防すべき伝染病の中には明確に規定はされておらず、一律に「学校長の判断によって出席停止の扱いをするもの」とはならない。したがって、欠席者が多くなり授業などに支障をきたしそうな場合、流行の大きさあるいは合併症の発生などから保護者の間で不安が多い場合など、「学校長が学校医と相談をして第3種学校伝染病としての扱いをすることがあり得る病気」と解釈される。通常の学校などでの対応のめやすとしては、発疹が現れたときには感染力はほとんどなくなっているため、発疹のみで全身状態の良いものについては登校が可能であると考えられる。ただし急性期には、症状の変化に注意しておく必要がある。

( 国立感染症研究所感染症情報センター )

\*\*\*\*\*

### 【訂正】

2000年第6週( 通巻第2巻 第6号 )の「感染症の話( 狂犬病: P9 ~ 11 )」において、図2の説明で出典に関する脱落がありましたので、以下のように訂正いたします。なお、同記事のPDF版についても可及的速やかに差し替える予定です。

< 誤 > 図2. 狂犬病の犬

< 正 > 図2. 狂犬病の犬、"The Natural History of Rabies( Academic Press )"より転載



## 読者のコーナー

Q: ビブリオ・バルニフィカス (*Vibrio vulnificus*) 感染症の診断・治療方法と発生件数について教えてください。  
(東京都皮膚科医師)

ビブリオ・バルニフィカス感染症の診断などについて

### 診断

ビブリオ・バルニフィカスの病原性は弱いので、健常人では稀に胃腸炎を発症するのみである<sup>1)3)</sup>。しかし、慢性肝疾患、糖尿病、腎不全、免疫不全者などの慢性の基礎疾患を持つ患者には、原発性敗血症型、創傷感染症型を発症しうる<sup>1)3)</sup>。潜伏期間は海産物の生食後12～72時間とされ<sup>1)3)</sup>、創傷感染型はそれ以上に及ぶことがある<sup>1)</sup>。

原発性敗血症型は、ビブリオ・バルニフィカスに汚染された海産物を生食後、嘔気、腹痛、下痢などの消化器症状、激しい疼痛や水疱、紅斑などの皮膚症状、発熱、悪寒などの症状がみられる<sup>1)3)</sup>。皮膚症状はいわゆる壊死性筋膜炎であり、急激に進行し、しばしばショックを呈する。創部感染症型は、夏期に創部を海水や汽水に曝露した後、同部の皮膚軟部組織感染症を発症し、進行すると二次性敗血症によって原発性敗血症型と同様の症状を呈する<sup>1)3)</sup>。嘔気、嘔吐は約半数にみられるが、腹痛や下痢は原発性敗血症型に比べて頻度が少ない<sup>2)</sup>。

夏期に、慢性肝疾患、糖尿病、腎不全、免疫不全者などの基礎疾患を有する患者での敗血症、創部感染症を診たら、本症を鑑別するため、発症前の海産物の生食、海水や汽水への創部の曝露について、本人あるいは家族に問診する。

症状、問診で本症が疑われる場合、以下の手順で細菌学的検査を行い、診断を確定する。皮膚症状がみられた場合、皮膚の水疱内容液、浸出液をスライドグラスに塗抹して、ギムザ染色やグラム染色を行う<sup>1)4)5)</sup>。ギムザ染色で連鎖球菌が見られず、かつグラム陰性桿菌が見られれば、ビブリオ・バルニフィカスを考慮した抗生物質を選択する。併せて、皮膚の水疱内容液、浸出液を細菌培養に提出する。原発性敗血症型、創部感染症型では、血液培養で高率に菌を分離しうる。血液検体は一般に用いられる血液培養のボトルに採取すればよく、分離培養の過程で血液寒天培地では灰白色の集落が観察される<sup>1)4)5)</sup>。血液検体や皮膚の水疱内容液を細菌検査室に提出する際、本症を疑っている旨を連絡しておけば、分離培養の段階でTCBS寒天培地などの選択的培地を用いることで、同定までの時間を節約できるため、それだけ患者を救命できる。

### 治療

第三代セフェム系やテトラサイクリン系の抗生物質が優れた抗菌力を示す<sup>1)4)5)</sup>。それぞれ単独で投与するよりも、併用する方がより有効であることを示唆する報告がある<sup>6)</sup>。発症から薬剤投与開始までの時間が短いほど救命率が高い<sup>7)</sup>、上記手順などを参考に診断を進め、可及的早期に適切な薬剤を投与し始めるべきである。

また、デブリドマンや患肢切断術などの外科的処置が必要なケースもある<sup>1)5)8)</sup>。とくに、基礎疾患を有する患者では進行が急激であるため、早期に外科的な処置を必要とする<sup>8)</sup>。

### 疫学

本症は感染症法に基づく発生動向調査の報告疾患ではないため、年間患者発生数や死亡数などは不明である。しかし、1978年の本邦第一例目以降、医学専門誌には約100例の患者が報告されている。

1999年古城らは本邦93例についてまとめている<sup>5)</sup>。それによると、患者の大半が7～9月に発生し、関東以西の西日本からの報告が主であった<sup>5)</sup>。男女比は6:1で男性に多く、7割が肝硬変、2割が糖尿病を合併しており、うち、魚介類の摂食歴があるものが74%、創傷感染型はわずかに9%であった<sup>5)</sup>。また、死亡率は70%であった<sup>5)</sup>。米国では1989年より、アラバマ州、フロリダ州、ルイジアナ州、テキサス州、ミシシッピ州などメキシコ湾岸の5州と米国疾病管理対策センター( CDC )でビブリオ感染症の発生動向調査が行われている。また韓国では、2000年よりビブリオ・バルニフィカス敗血症の発生動向調査が行われている。それらによれば、米国では年間推定患者数は95例程度<sup>9)</sup>、韓国では2000年に35例<sup>10)</sup>の患者が報告されている。

原発性敗血症型の感染源は、米国ではほとんどが生ガキであるが<sup>2)</sup>、日本人はいろいろな海産物を生食するため、感染源も多様であると考えられる。病型については、米国では創傷感染型が48%と半数近くを占めるのに対し<sup>2)</sup>、日本では6%と少ない<sup>5)</sup>。

また、発症前の基礎疾患については、米国ではいわゆるアルコール依存症が46%( 181/393 )<sup>2)</sup>、韓国では70%( 49/70 )<sup>11)</sup>であるのに対し、古城らのまとめた症例一覧ではアルコール性肝障害の頻度が6%( 6/96 )<sup>2)</sup>と、米韓と比べその頻度に有意な差(  $p < 0.01$  )がみられた。このように、日米韓での疫学には違いがみられるが、それが医学専門誌に報告される症例の選択バイアスによるものか、あるいは本邦における本症の疫学的な特徴であるのかについては、本邦における経口感染源、基礎疾患の特徴などと共に今後の解明が望まれる。

## 文 献

- 1 )黒木美鈴、河野茂 : 最新医学 54( 3月増刊号 ): 76, 1999
- 2 )Shapiro RL, et al : J Inf Dis 178 : 752, 1998
- 3 )Control of Communicable Diseases Manual, 17th edition, APHA, 2000, p111
- 4 )島田俊雄、荒川英二 : 食衛誌 41 : 396, 2000
- 5 )古城八寿子、他 : 日皮会誌 109 : 875, 1999
- 6 )Chuang YC, et al : Antimicrob Agents Chemother 42 : 1319, 1998
- 7 )Klontz KC, et al : Ann Intern Med 109 : 318, 1988
- 8 )Halow KD, et al : J Am Coll Surg 183 : 329, 1996
- 9 )Mead PS, et al : Emerg Infect Dis 5:607, 1999( <http://www.cdc.gov/ncidod/eid/vol5no5/mead.htm> )
- 10 )Communicable Diseases Monthly Report, 12( 1 ), 2001
- 11 )Park SD, et al : J Am Acad Dermatol 24 : 397, 1991

( 国立感染症研究所感染症情報センター )

\*\*\*\*\*

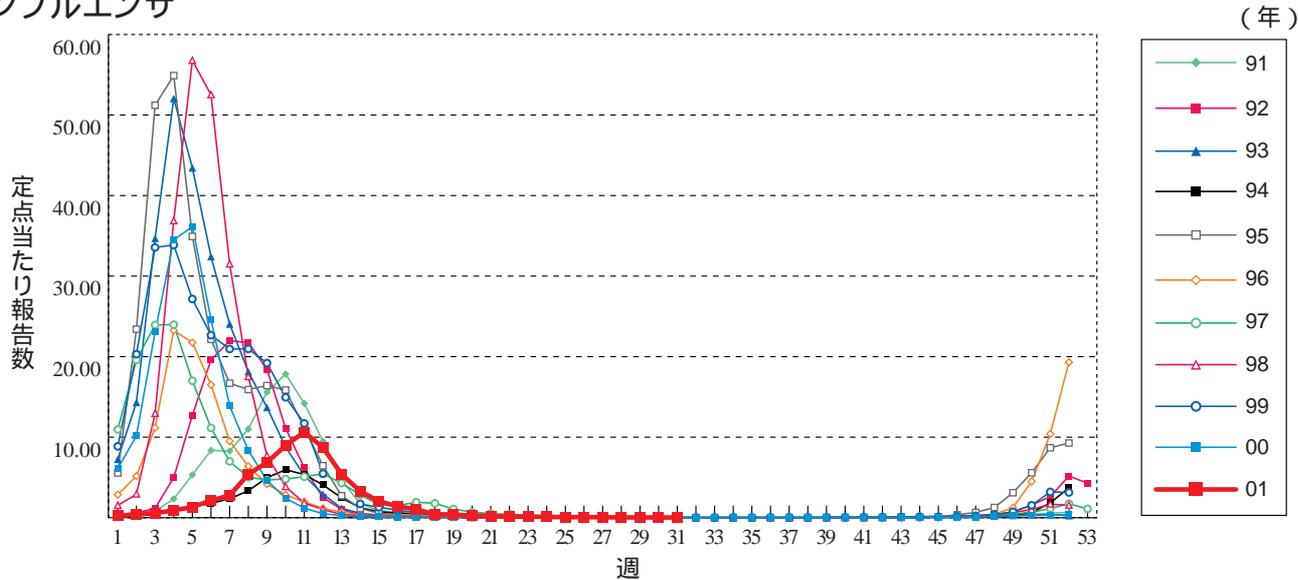
「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。  
ご意見・ご質問は、題名( タイトル )の一番はじめにidwr-QをつけてこちらまでEメールでどうぞ。

[idsc-query@nih.go.jp](mailto:idsc-query@nih.go.jp)

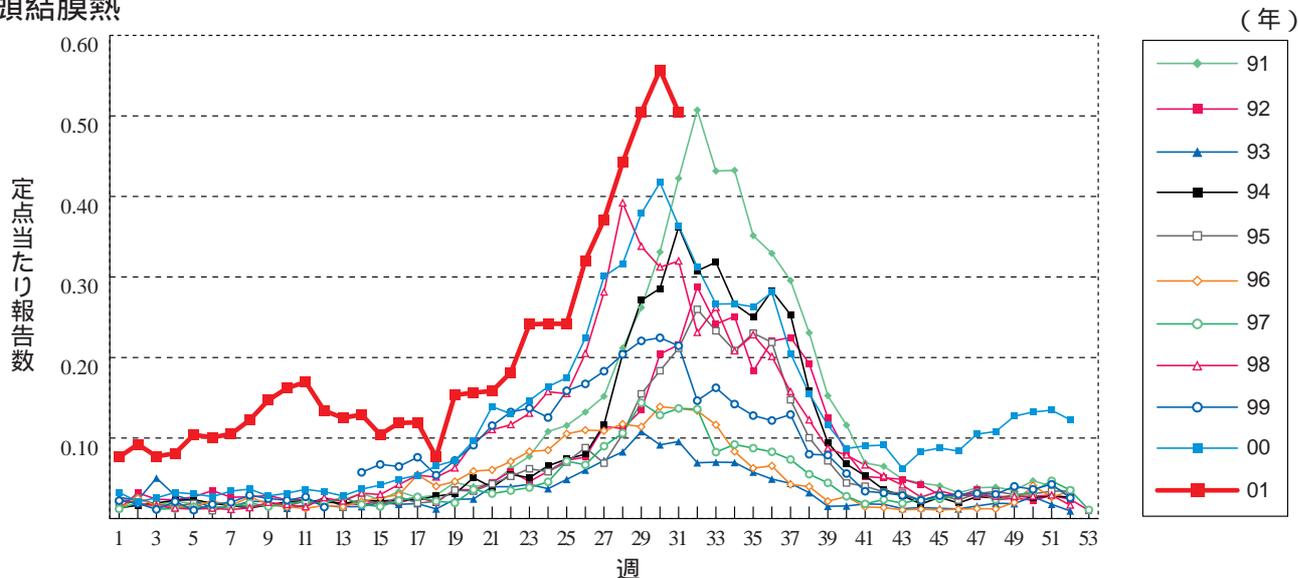


**グラフ総覧(31週)**

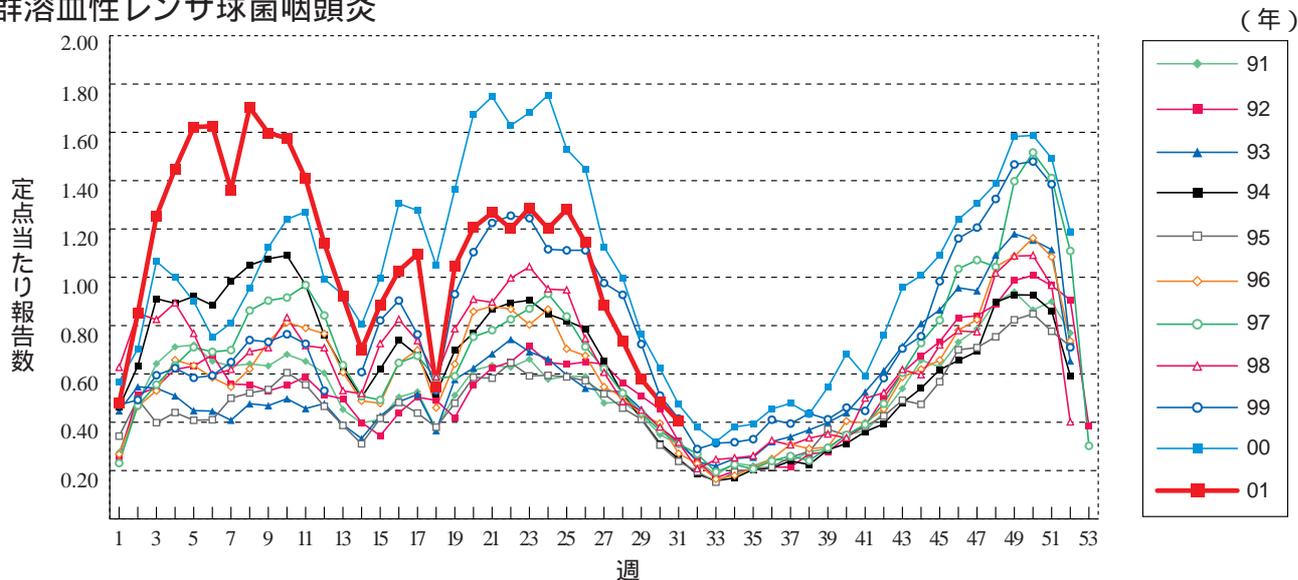
**インフルエンザ**



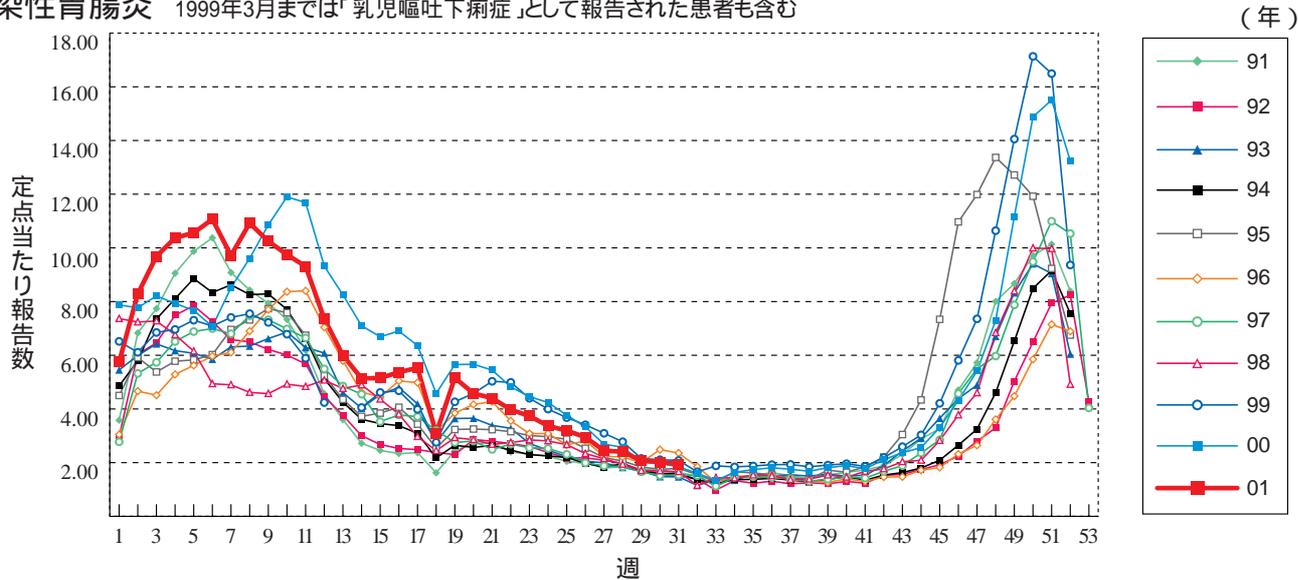
**咽頭結膜熱**



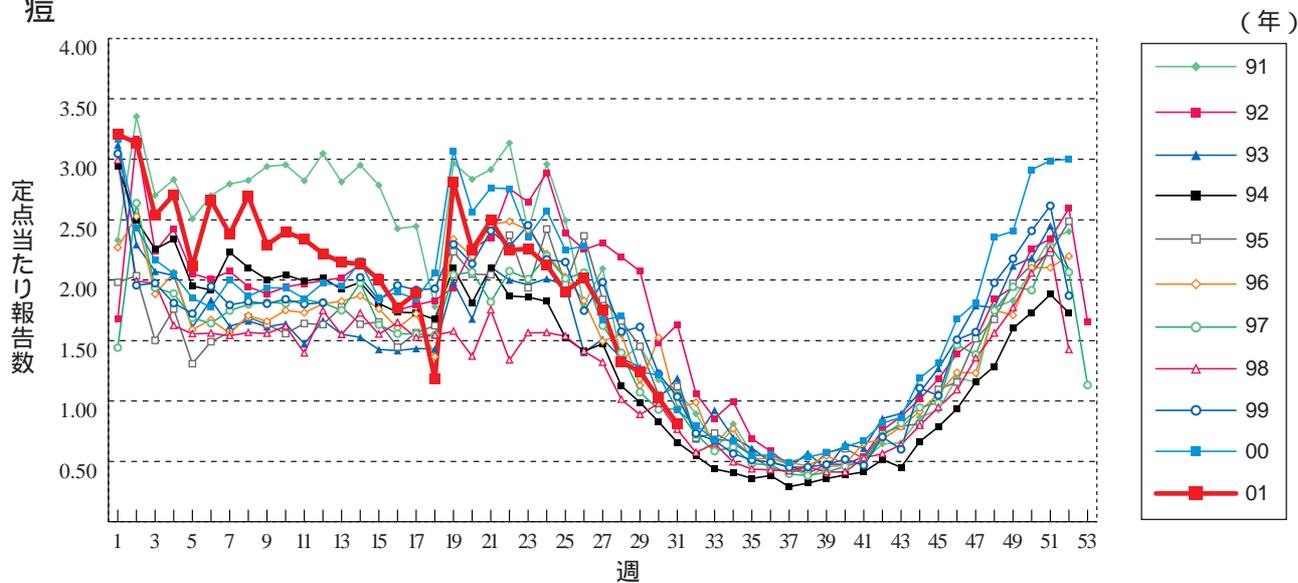
**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**



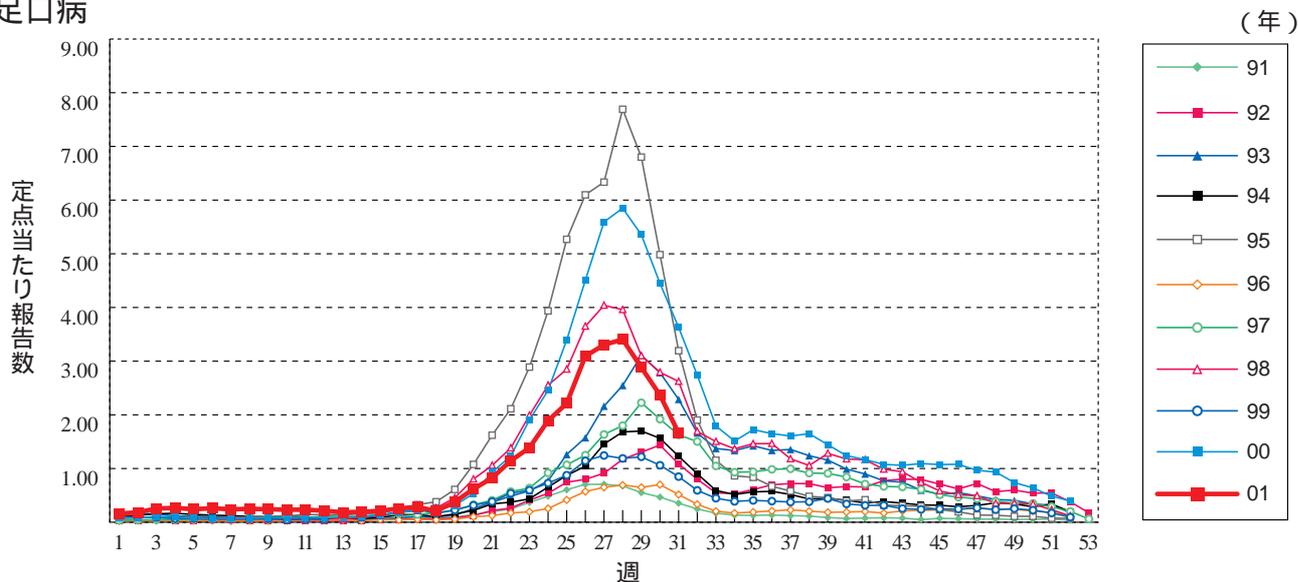
**感染性胃腸炎** 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



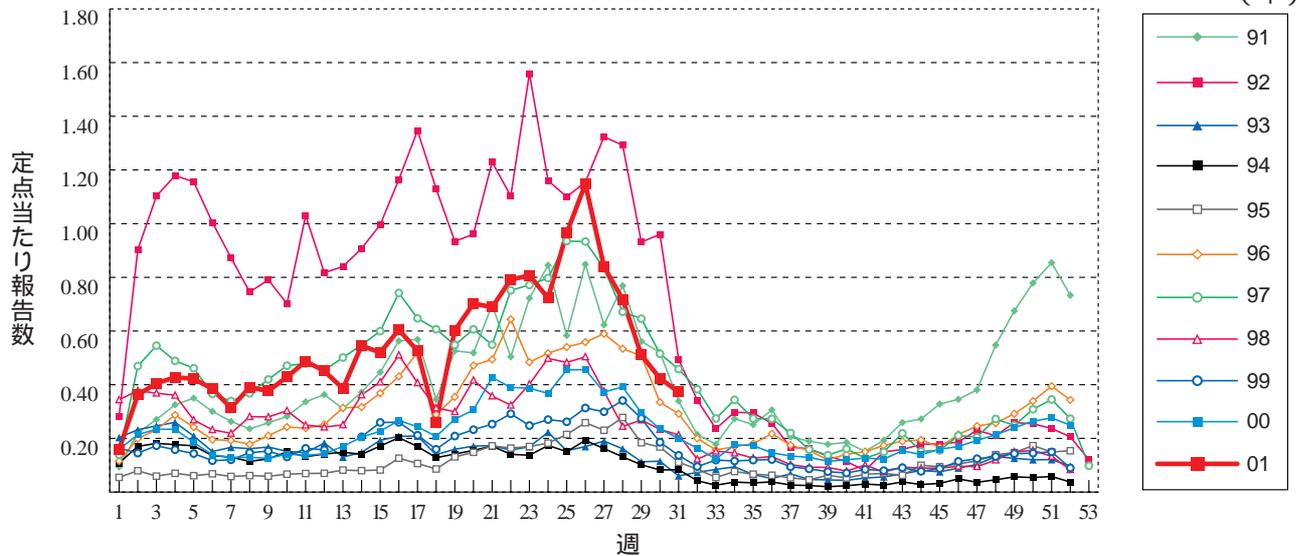
**水痘**



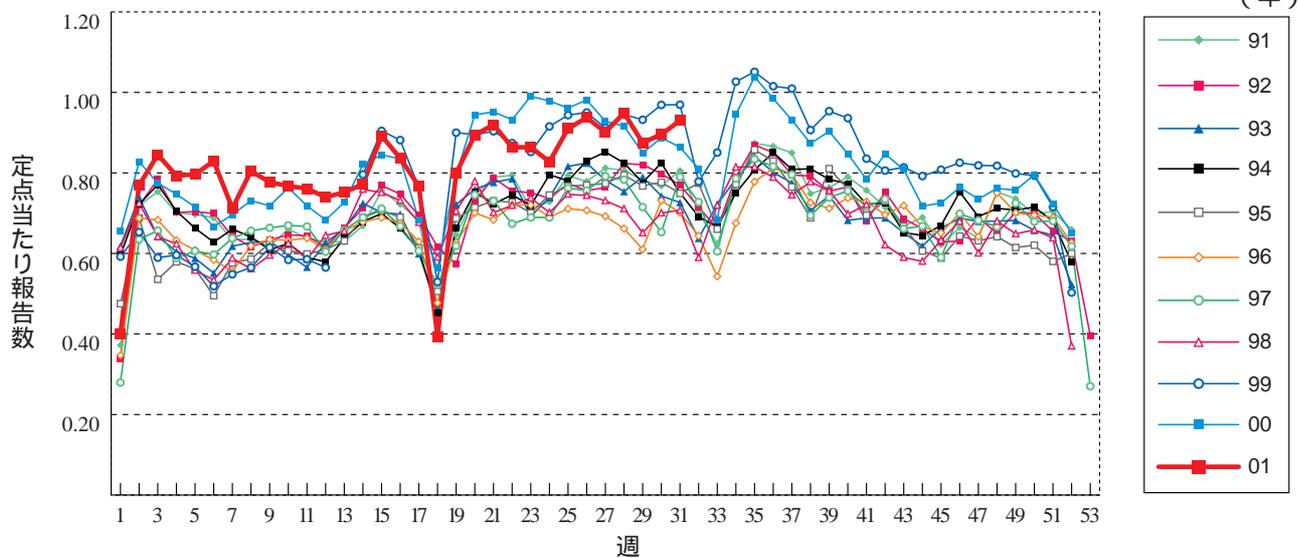
**手足口病**



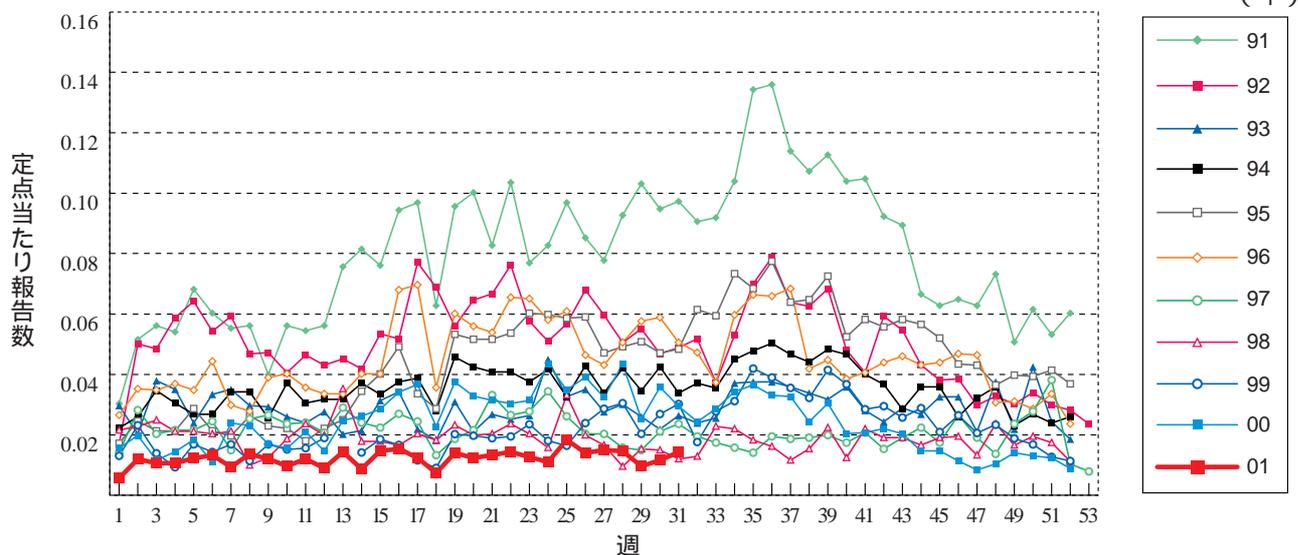
伝染性紅斑



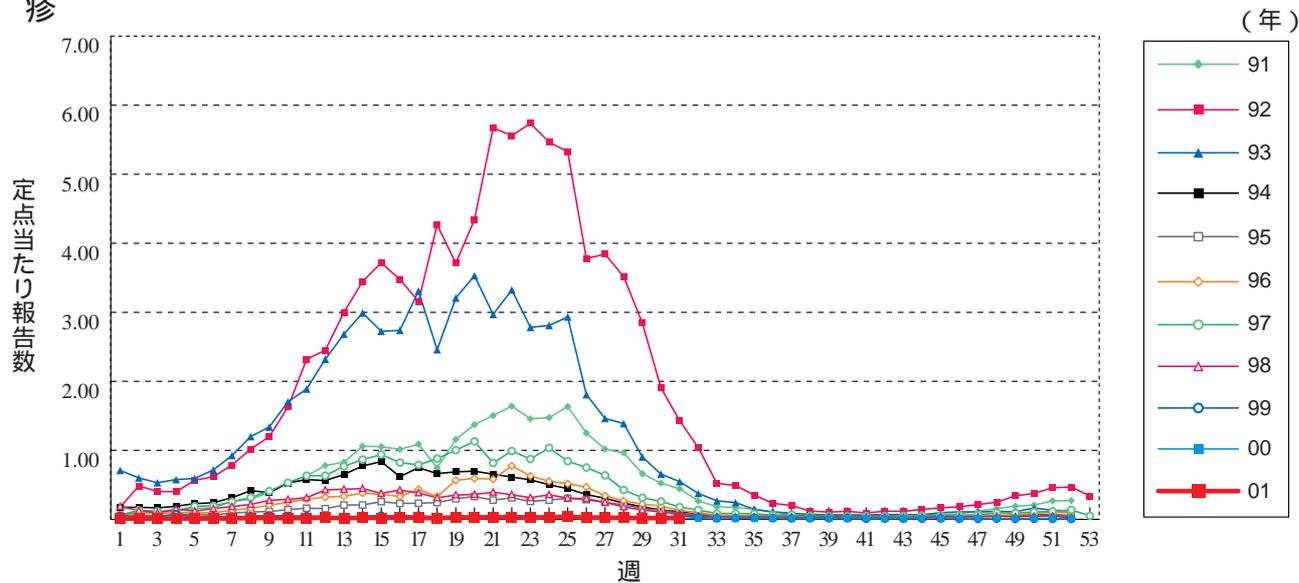
突発性発疹



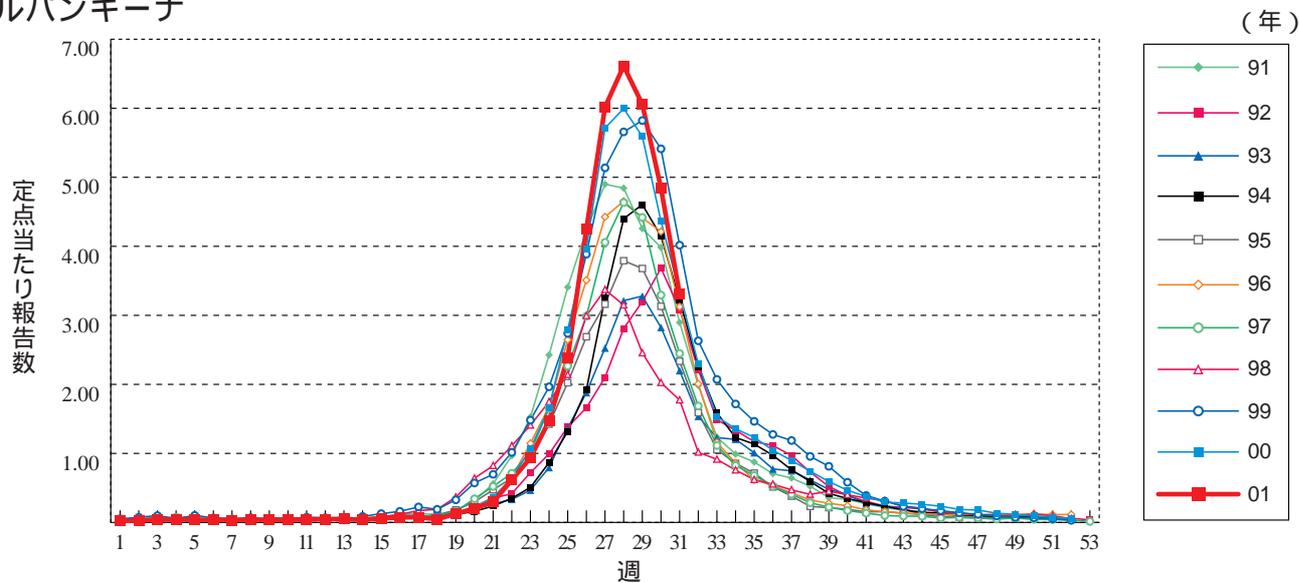
百日咳



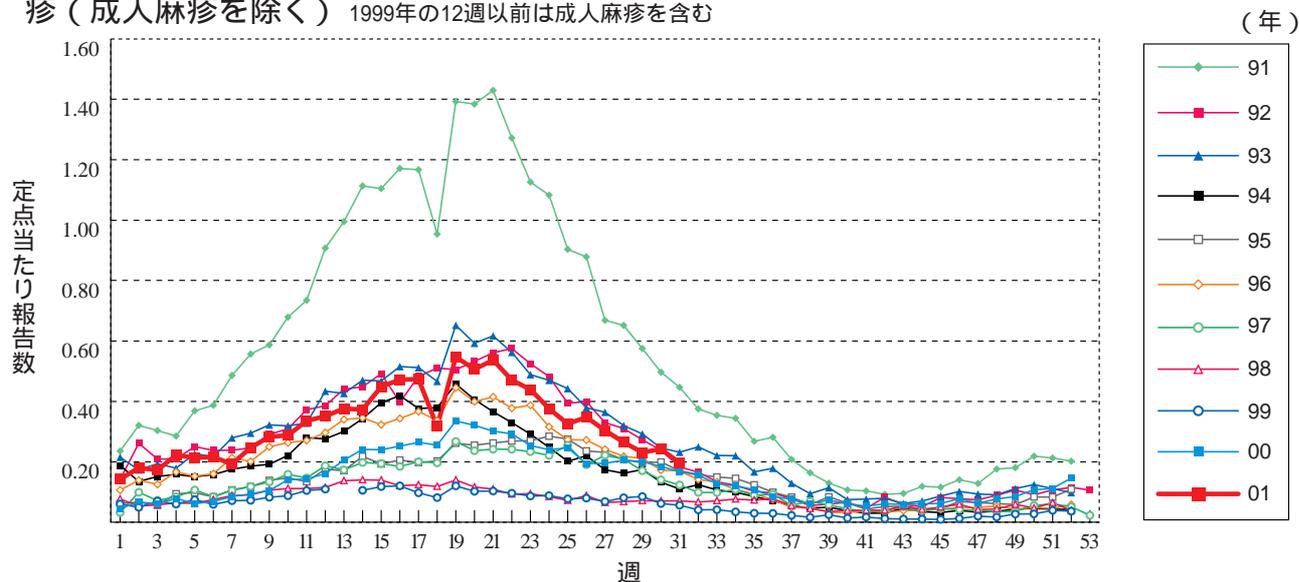
風 疹



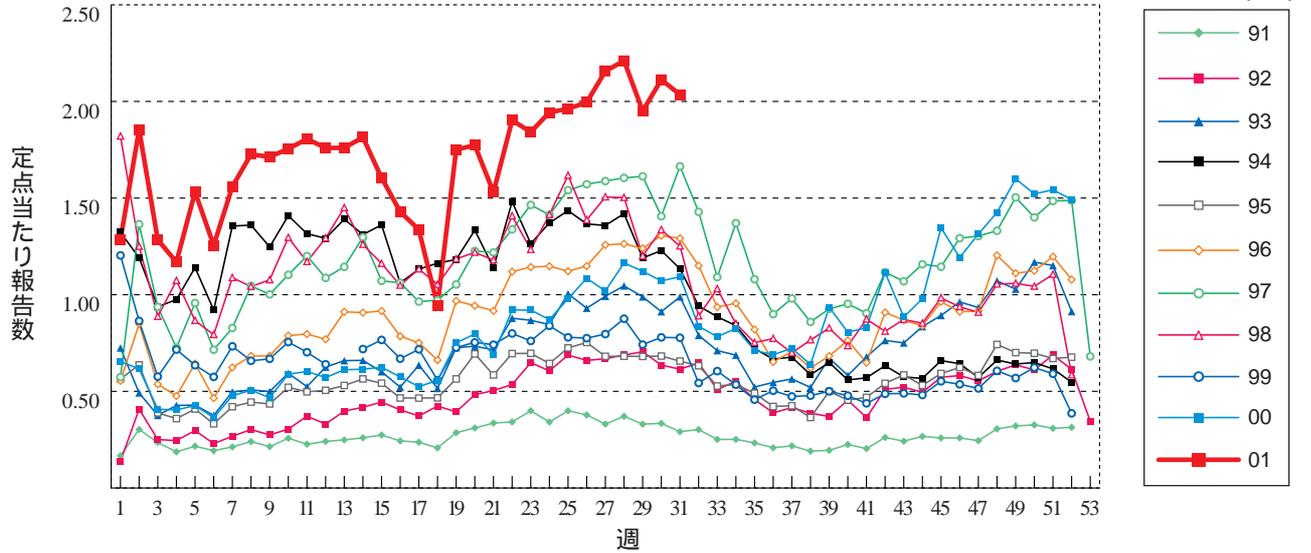
ヘルパンギーナ



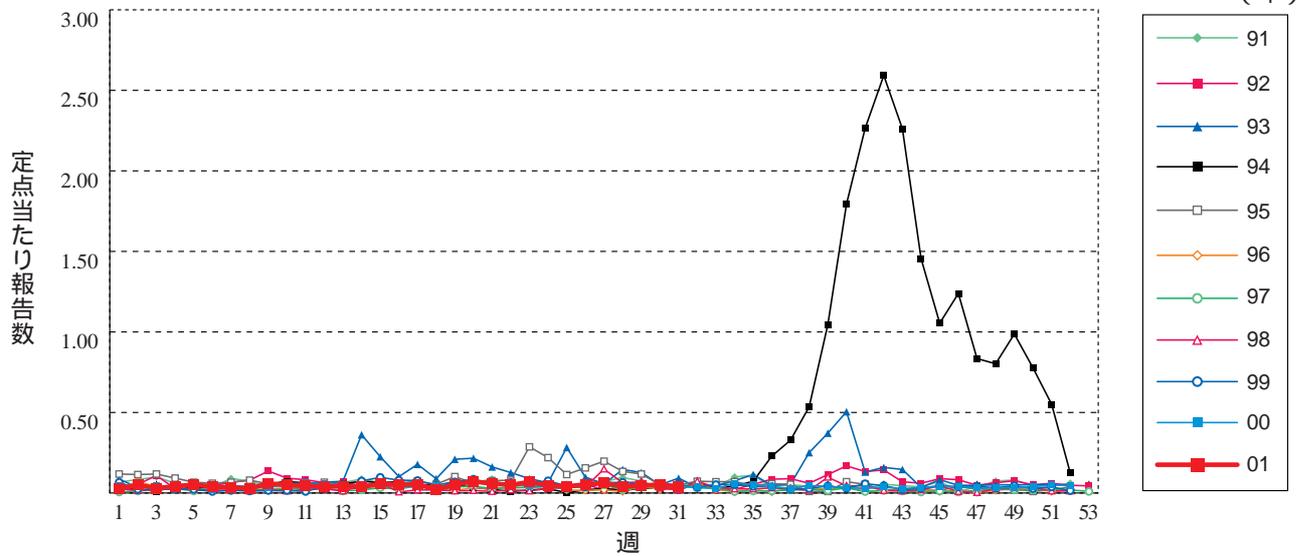
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



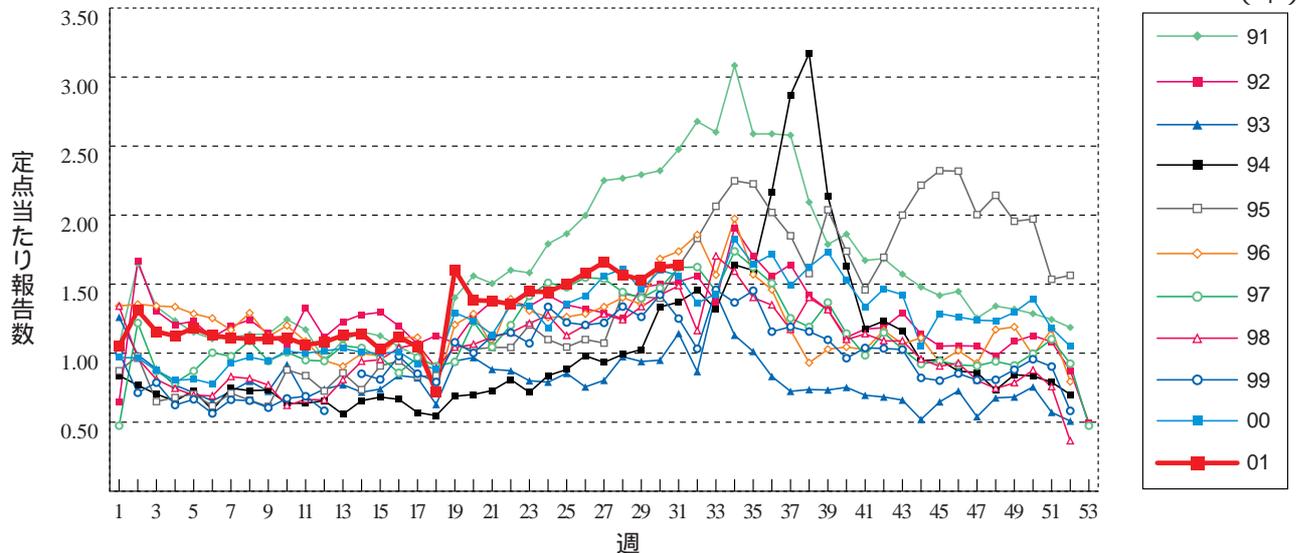
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

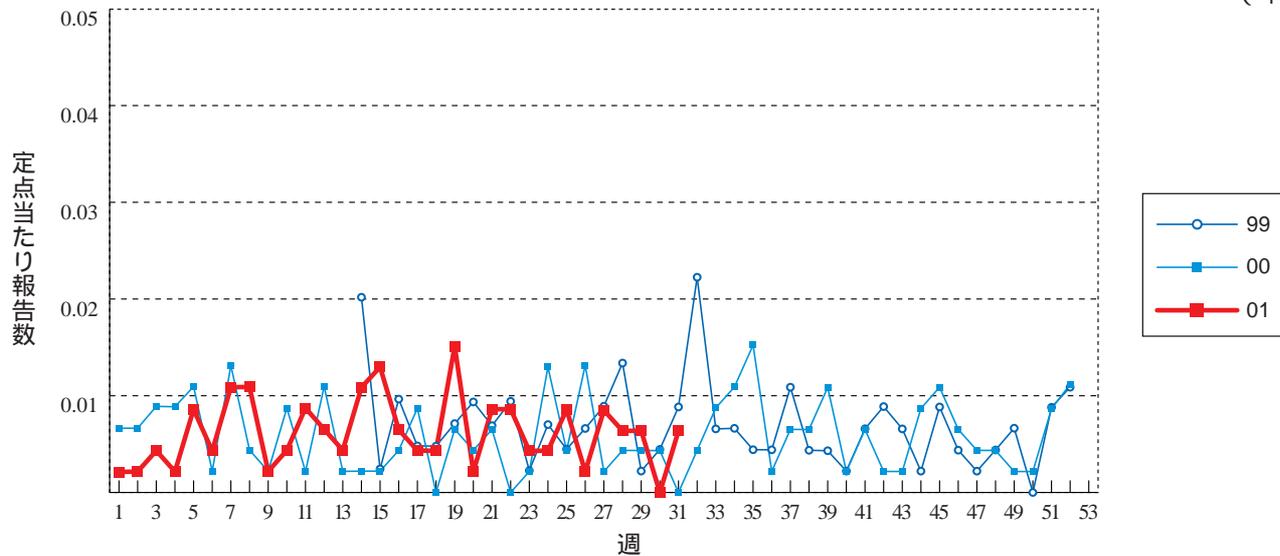


流行性角結膜炎



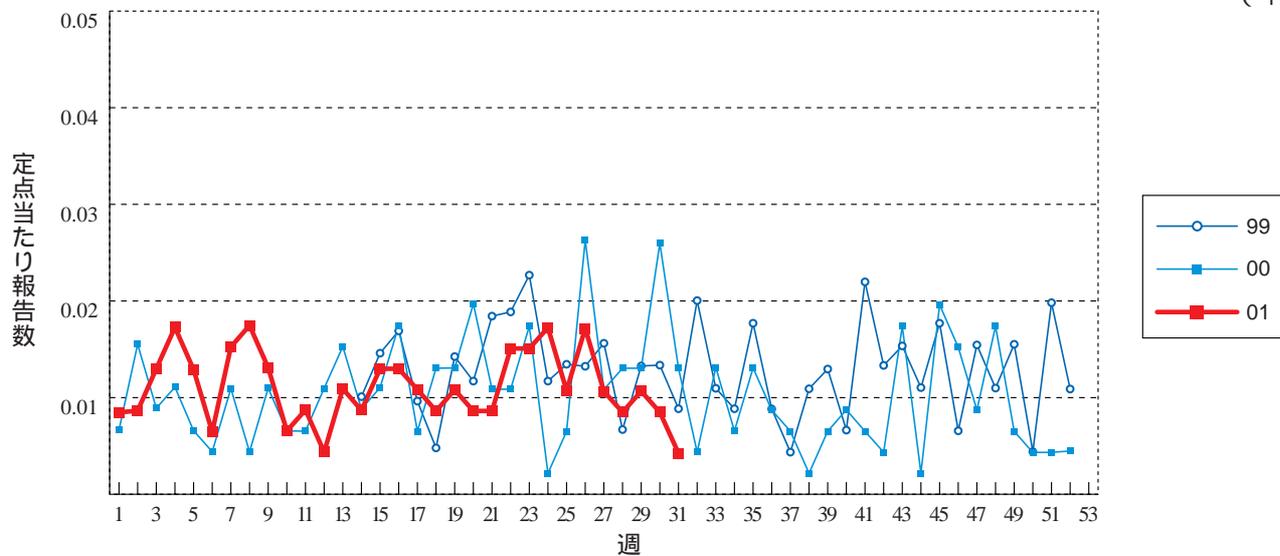
急性脳炎 (日本脳炎を除く)

(年)



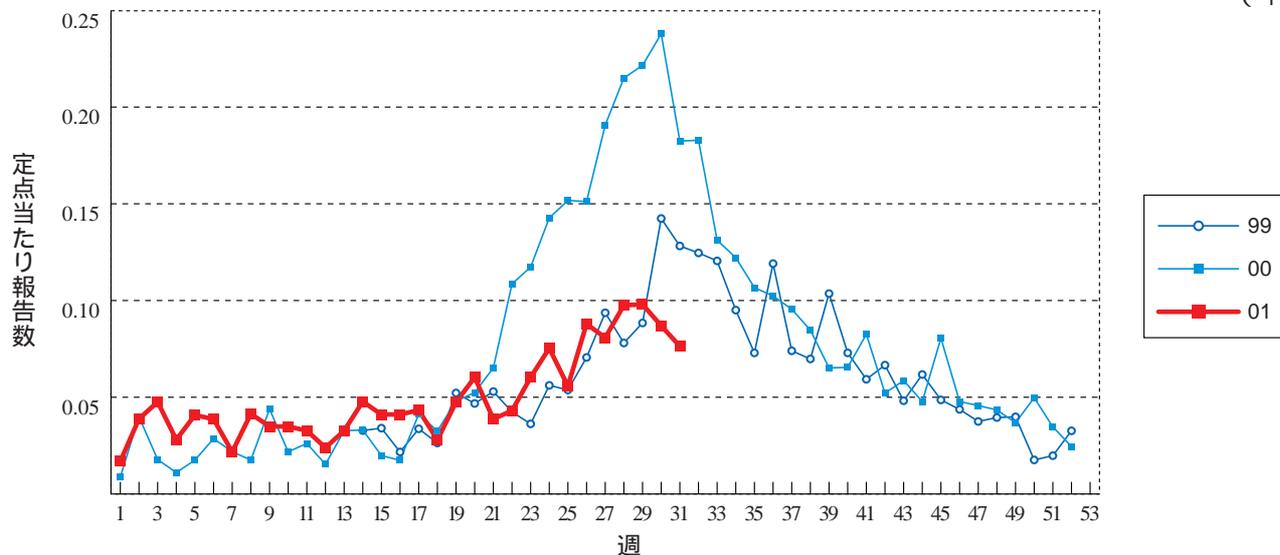
細菌性髄膜炎

(年)



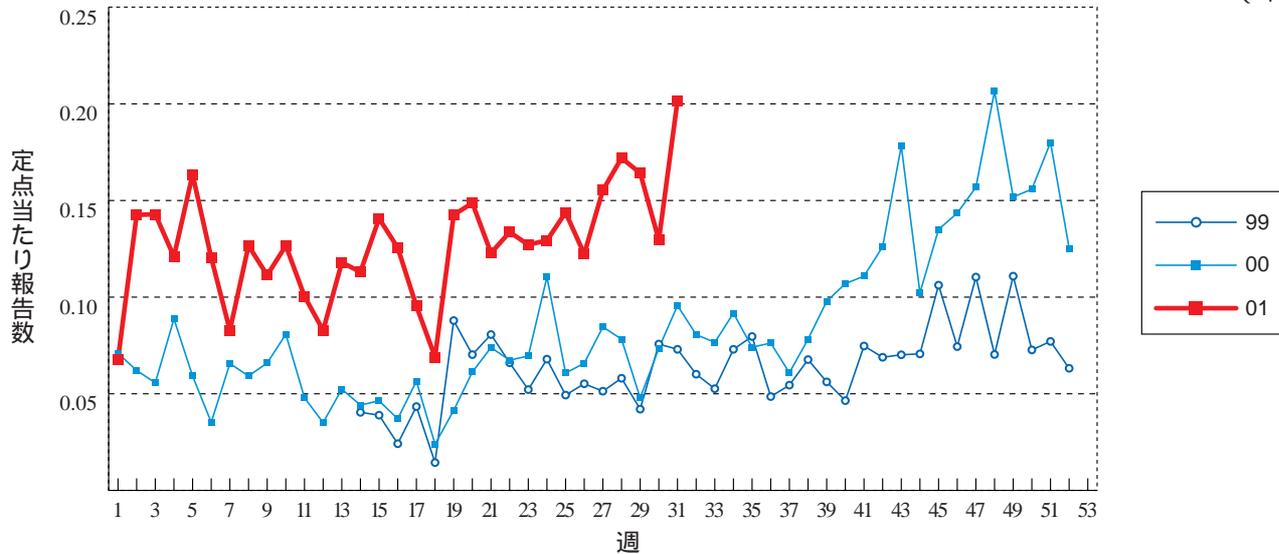
無菌性髄膜炎

(年)



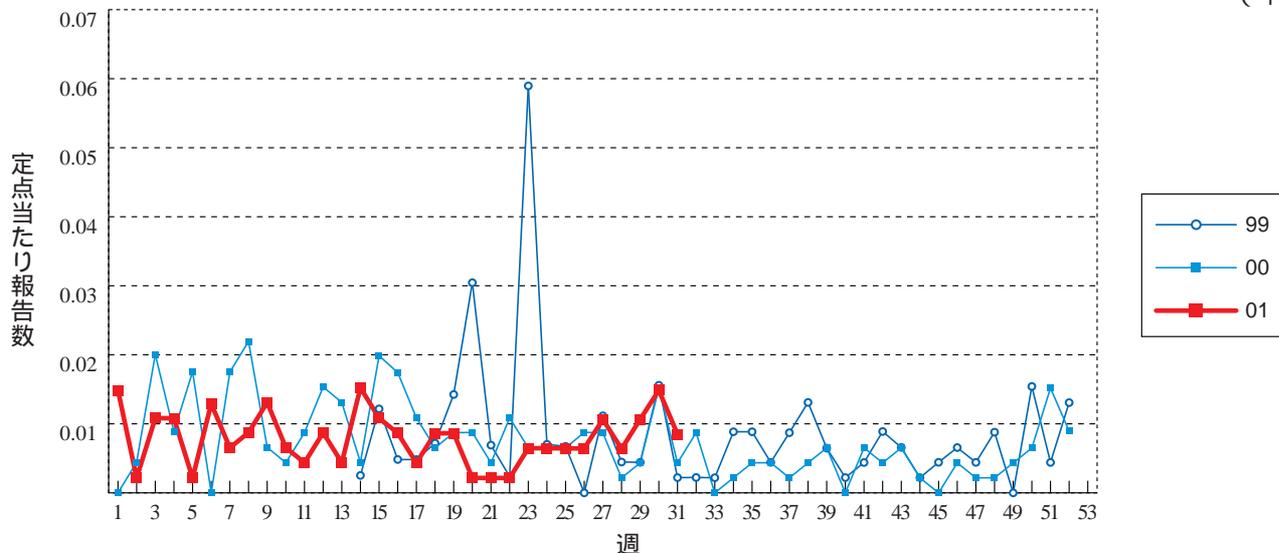
マイコプラズマ肺炎

(年)



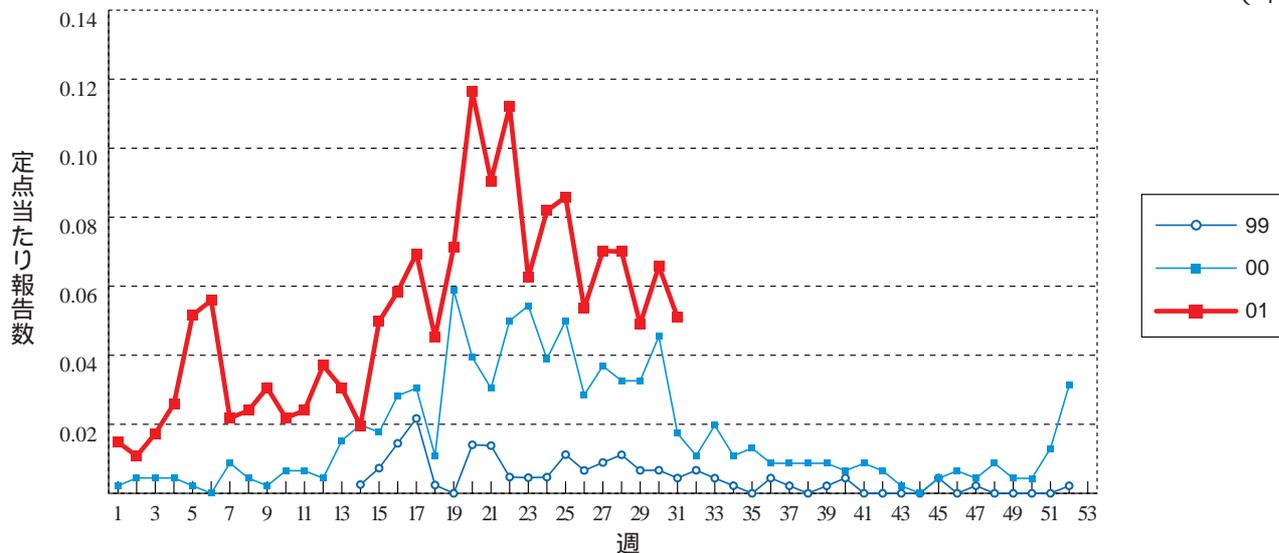
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





### 31週 のデータ

注 )表中の報告数は8月10日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年31週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25	18	374	1	40	-	10	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	10	-	1	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	1	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	1	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	5	-	2	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	19	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	19	-	4	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	2	73	-	13	-	7	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	27	-	-	-	2	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	10	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	9	-	1	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	23	1	4	-	1	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	6	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	5	31	-	6	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	23	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	5	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	9	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	16	-	1	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成13年31週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	332	2212	6	219	-	6	-	-	1	24	-	-	6	533
北海道	-	-	-	-	4	58	-	3	-	5	-	-	-	-	-	-	-	6
青森県	-	-	-	-	4	21	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	1
岩手県	-	-	-	-	4	23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
宮城県	-	-	-	-	8	27	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
秋田県	-	-	-	-	-	23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
山形県	-	-	-	-	4	21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	15	38	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4
茨城県	-	-	-	-	3	29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
栃木県	-	-	-	-	1	19	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
群馬県	-	-	-	-	7	43	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17
埼玉県	-	-	-	-	8	109	-	8	-	-	-	-	-	1	-	-	-	11
千葉県	-	-	-	-	31	228	-	9	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
東京都	-	-	-	-	19	167	1	68	-	-	-	-	1	7	-	-	1	79
神奈川県	-	-	-	-	23	177	2	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	35
新潟県	-	-	-	-	6	18	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4
富山県	-	-	-	-	1	45	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
石川県	-	-	-	-	5	41	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	5
福井県	-	-	-	-	2	13	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
山梨県	-	-	-	-	2	5	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4
長野県	-	-	-	-	7	21	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
岐阜県	-	-	-	-	1	6	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	41
静岡県	-	-	-	-	8	34	-	3	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4
愛知県	-	-	-	-	9	100	-	10	-	-	-	-	-	4	-	-	-	14
三重県	-	-	-	-	11	52	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
滋賀県	-	-	-	-	4	31	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
京都府	-	-	-	-	5	56	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
大阪府	-	-	-	-	16	210	1	34	-	-	-	-	-	3	-	-	1	52
兵庫県	-	-	-	-	22	117	2	10	-	-	-	-	-	-	-	-	1	50
奈良県	-	-	-	-	14	39	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
和歌山県	-	-	-	-	2	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
鳥取県	-	-	-	-	2	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
島根県	-	-	-	-	27	61	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	6	43	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
広島県	-	-	-	-	8	49	-	4	-	-	-	-	-	1	-	-	-	13
山口県	-	-	-	-	5	20	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
徳島県	-	-	-	-	1	7	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
香川県	-	-	-	-	1	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
愛媛県	-	-	-	-	1	37	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
高知県	-	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4
福岡県	-	-	-	-	9	59	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	38
佐賀県	-	-	-	-	2	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長崎県	-	-	-	-	2	35	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
熊本県	-	-	-	-	6	20	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
大分県	-	-	-	-	7	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
宮崎県	-	-	-	-	3	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
鹿児島県	-	-	-	-	5	18	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
沖縄県	-	-	-	-	-	10	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成13年31週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	13	-	-	-	3	3	68	1	30	11	498	-	1	3	83	-	-
北海道	-	2	-	-	-	-	-	1	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	1	-	-	-	2	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	2	-	9	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	15	-	-	-	1	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	3	-	-	-	-	-	1	-	1	-	18	-	-	-	2	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	4	1	3	-	36	-	-	-	1	-	-
東京都	-	-	-	-	-	2	-	5	-	4	4	205	-	-	2	38	-	-
神奈川県	-	1	-	-	-	1	-	4	-	1	1	47	-	-	-	8	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	7	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	5	-	-	-	-	-	1	-	1	-	8	-	-	-	1	-	-
愛知県	-	1	-	-	-	-	-	3	-	2	-	20	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	7	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	6	-	-	-	7	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	7	-	1	3	41	-	-	1	12	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	2	-	12	-	-	-	1	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	1	3	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	2	-	-	-	1	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	1	4	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	1	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年31週

	髄膜炎菌性髄膜炎		先天性風疹症候群		炭疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児ポツリヌス症		梅毒		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	
総数	-	6	-	1	-	-	-	196	1	22	2	18	-	-	-	-	-	8	308
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	10
青森県	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
山形県	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福島県	-	-	-	-	-	-	-	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	3
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	2	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	5
千葉県	-	1	-	-	-	-	-	3	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	9
東京都	-	1	-	-	-	-	-	4	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	54
神奈川県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	6
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	10	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	4
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
愛知県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	9
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
京都府	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	69
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	2	16
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	8
広島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	10	-	-	-	-	-	-	4
福岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	14
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	3
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	5
大分県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
宮崎県	-	1	-	1	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	22	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	2
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成13年31週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	1	37	1	23	-	-	-	-	-	-	-	-	56	-	4	-	42	
北海道	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	2	
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山形県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
茨城県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4	
栃木県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
群馬県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1	
千葉県	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	
東京都	-	1	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	20	-	1	-	5	
神奈川県	1	3	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1	
新潟県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	
富山県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
石川県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山梨県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長野県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
岐阜県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
静岡県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	
愛知県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
大阪府	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1	
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岡山県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	
広島県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山口県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
徳島県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
愛媛県	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
高知県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
熊本県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮崎県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
沖縄県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成13年31週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	138	0.03	1522	0.50	1219	0.40	5874	1.95	2446	0.81	5013	1.66	1127	0.37	2806	0.93	43	0.01
北海道	6	0.03	65	0.45	85	0.59	129	0.89	178	1.23	333	2.30	9	0.06	87	0.60	1	0.01
青森県	2	0.03	21	0.50	8	0.19	35	0.83	20	0.48	65	1.55	17	0.40	25	0.60	1	0.02
岩手県	1	0.02	13	0.35	13	0.35	29	0.78	50	1.35	8	0.22	8	0.22	23	0.62	-	-
宮城県	1	0.01	43	0.73	18	0.31	144	2.44	78	1.32	94	1.59	60	1.02	64	1.08	-	-
秋田県	-	-	4	0.11	14	0.40	53	1.51	24	0.69	196	5.60	35	1.00	23	0.66	1	0.03
山形県	1	0.02	12	0.40	15	0.50	44	1.47	35	1.17	29	0.97	20	0.67	36	1.20	-	-
福島県	1	0.01	12	0.25	20	0.42	62	1.29	45	0.94	17	0.35	13	0.27	41	0.85	-	-
茨城県	2	0.02	21	0.29	19	0.26	110	1.51	30	0.41	36	0.49	23	0.32	47	0.64	-	-
栃木県	-	-	31	0.67	26	0.57	77	1.67	21	0.46	8	0.17	10	0.22	56	1.22	-	-
群馬県	-	-	84	1.38	32	0.52	93	1.52	42	0.69	38	0.62	28	0.46	50	0.82	3	0.05
埼玉県	2	0.01	160	1.00	90	0.56	284	1.77	188	1.18	229	1.43	101	0.63	184	1.15	3	0.02
千葉県	-	-	71	0.55	61	0.48	193	1.51	97	0.76	333	2.60	67	0.52	140	1.09	1	0.01
東京都	-	-	39	0.27	31	0.22	222	1.56	62	0.44	100	0.70	34	0.24	63	0.44	1	0.01
神奈川県	3	0.01	128	0.64	39	0.19	302	1.50	134	0.67	190	0.95	86	0.43	214	1.06	-	-
新潟県	-	-	52	0.87	49	0.82	89	1.48	53	0.88	117	1.95	4	0.07	52	0.87	-	-
富山県	-	-	1	0.03	11	0.38	43	1.48	24	0.83	14	0.48	7	0.24	18	0.62	-	-
石川県	-	-	6	0.21	7	0.24	115	3.97	12	0.41	69	2.38	11	0.38	29	1.00	-	-
福井県	-	-	2	0.09	4	0.18	107	4.86	35	1.59	160	7.27	18	0.82	20	0.91	1	0.05
山梨県	2	0.05	5	0.20	11	0.44	26	1.04	18	0.72	59	2.36	4	0.16	12	0.48	-	-
長野県	-	-	58	1.07	25	0.46	138	2.56	54	1.00	255	4.72	16	0.30	36	0.67	4	0.07
岐阜県	7	0.09	35	0.74	28	0.60	67	1.43	42	0.89	167	3.55	23	0.49	29	0.62	-	-
静岡県	1	0.01	80	0.93	27	0.31	203	2.36	49	0.57	215	2.50	47	0.55	103	1.20	4	0.05
愛知県	-	-	130	0.71	114	0.63	325	1.79	111	0.61	279	1.53	81	0.45	180	0.99	4	0.02
三重県	-	-	47	1.04	13	0.29	184	4.09	60	1.33	212	4.71	42	0.93	58	1.29	-	-
滋賀県	-	-	26	0.81	4	0.13	31	0.97	15	0.47	17	0.53	5	0.16	18	0.56	-	-
京都府	-	-	19	0.25	24	0.32	204	2.68	48	0.63	43	0.57	22	0.29	50	0.66	1	0.01
大阪府	-	-	29	0.15	61	0.31	373	1.92	165	0.85	63	0.32	40	0.21	171	0.88	1	0.01
兵庫県	4	0.02	27	0.21	25	0.20	303	2.40	111	0.88	167	1.33	33	0.26	148	1.17	1	0.01
奈良県	-	-	8	0.23	11	0.31	78	2.23	36	1.03	11	0.31	25	0.71	34	0.97	-	-
和歌山県	-	-	11	0.35	6	0.19	43	1.39	14	0.45	10	0.32	2	0.06	27	0.87	-	-
鳥取県	-	-	10	0.53	27	1.42	94	4.95	12	0.63	11	0.58	6	0.32	24	1.26	-	-
島根県	-	-	1	0.04	3	0.13	42	1.83	16	0.70	9	0.39	-	-	5	0.22	-	-
岡山県	-	-	6	0.11	16	0.30	79	1.46	22	0.41	33	0.61	3	0.06	28	0.52	-	-
広島県	-	-	50	0.67	37	0.49	172	2.29	61	0.81	99	1.32	32	0.43	66	0.88	3	0.04
山口県	-	-	23	0.47	20	0.41	111	2.27	36	0.73	224	4.57	17	0.35	61	1.24	1	0.02
徳島県	-	-	4	0.17	7	0.30	33	1.43	23	1.00	16	0.70	7	0.30	25	1.09	1	0.04
香川県	-	-	7	0.22	8	0.25	69	2.16	32	1.00	45	1.41	11	0.34	32	1.00	1	0.03
愛媛県	-	-	21	0.54	13	0.33	137	3.51	25	0.64	62	1.59	16	0.41	45	1.15	2	0.05
高知県	-	-	24	0.77	13	0.42	29	0.94	15	0.48	14	0.45	6	0.19	20	0.65	-	-
福岡県	97	0.53	42	0.40	67	0.64	365	3.48	130	1.24	234	2.23	69	0.66	124	1.18	3	0.03
佐賀県	-	-	23	1.00	11	0.48	18	0.78	36	1.57	77	3.35	2	0.09	38	1.65	-	-
長崎県	-	-	8	0.17	4	0.08	74	1.54	30	0.63	103	2.15	13	0.27	37	0.77	1	0.02
熊本県	1	0.01	5	0.10	33	0.67	89	1.82	20	0.41	133	2.71	10	0.20	64	1.31	-	-
大分県	-	-	28	0.78	17	0.47	131	3.64	29	0.81	79	2.19	11	0.31	55	1.53	-	-
宮崎県	-	-	14	0.38	30	0.81	148	4.00	34	0.92	113	3.05	20	0.54	69	1.86	-	-
鹿児島県	6	0.06	14	0.23	18	0.30	170	2.83	60	1.00	216	3.60	11	0.18	64	1.07	-	-
沖縄県	1	0.02	2	0.06	4	0.12	7	0.21	14	0.41	11	0.32	2	0.06	11	0.32	4	0.12

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成13年31週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	55	0.02	9976	3.31	593	0.20	6141	2.04	25	0.04	1033	1.63	3	0.01	2	0.00	36	0.08
北海道	9	0.06	349	2.41	64	0.44	196	1.35	3	0.10	62	2.14	-	-	-	-	-	-
青森県	1	0.02	261	6.21	4	0.10	73	1.74	-	-	14	1.27	-	-	-	-	-	-
岩手県	1	0.03	203	5.49	2	0.05	65	1.76	-	-	8	0.67	-	-	-	-	-	-
宮城県	2	0.03	456	7.73	6	0.10	72	1.22	-	-	5	0.45	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	212	6.06	2	0.06	45	1.29	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	140	4.67	-	-	54	1.80	-	-	5	0.63	-	-	-	-	3	0.30
福島県	-	-	313	6.52	25	0.52	68	1.42	-	-	30	2.50	-	-	-	-	-	-
茨城県	4	0.05	149	2.04	22	0.30	177	2.42	-	-	74	4.63	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	107	2.33	2	0.04	69	1.50	2	0.17	26	2.17	1	0.14	-	-	1	0.14
群馬県	-	-	162	2.66	7	0.11	55	0.90	-	-	40	2.86	-	-	-	-	-	-
埼玉県	6	0.04	654	4.09	26	0.16	358	2.24	-	-	57	1.58	-	-	-	-	-	-
千葉県	3	0.02	525	4.10	26	0.20	294	2.30	2	0.06	62	1.88	-	-	-	-	-	-
東京都	3	0.02	362	2.55	19	0.13	110	0.77	-	-	28	2.00	-	-	-	-	-	-
神奈川県	7	0.03	622	3.09	31	0.15	378	1.88	2	0.05	84	2.10	-	-	-	-	1	0.09
新潟県	-	-	335	5.58	1	0.02	203	3.38	-	-	9	1.00	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	347	11.97	-	-	69	2.38	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	96	3.31	-	-	198	6.83	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	58	2.64	1	0.05	88	4.00	-	-	3	1.00	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	67	2.68	-	-	34	1.36	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	441	8.17	4	0.07	170	3.15	1	0.10	31	3.10	1	0.09	-	-	-	-
岐阜県	-	-	101	2.15	12	0.26	95	2.02	2	0.18	12	1.09	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	295	3.43	24	0.28	213	2.48	-	-	27	1.35	-	-	-	-	3	0.38
愛知県	1	0.01	407	2.24	57	0.31	359	1.97	1	0.03	49	1.40	-	-	-	-	-	-
三重県	1	0.02	140	3.11	2	0.04	85	1.89	-	-	5	0.42	-	-	-	-	-	-
滋賀県	2	0.06	131	4.09	7	0.22	54	1.69	-	-	7	1.00	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	152	2.00	-	-	119	1.57	-	-	14	0.78	-	-	-	-	-	-
大阪府	1	0.01	423	2.18	29	0.15	398	2.05	1	0.02	34	0.65	-	-	-	-	4	0.33
兵庫県	-	-	410	3.25	9	0.07	171	1.36	2	0.06	44	1.29	-	-	-	-	-	-
奈良県	1	0.03	114	3.26	9	0.26	59	1.69	-	-	10	1.11	-	-	-	-	7	1.17
和歌山県	-	-	90	2.90	3	0.10	81	2.61	-	-	1	0.25	-	-	-	-	1	0.09
鳥取県	-	-	91	4.79	1	0.05	6	0.32	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.20
島根県	1	0.04	63	2.74	7	0.30	16	0.70	-	-	3	1.00	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	183	3.39	4	0.07	62	1.15	-	-	18	1.50	-	-	-	-	-	-
広島県	3	0.04	254	3.39	6	0.08	105	1.40	-	-	44	2.20	-	-	-	-	4	0.19
山口県	-	-	145	2.96	6	0.12	55	1.12	-	-	18	2.00	-	-	-	-	1	0.11
徳島県	-	-	61	2.65	1	0.04	47	2.04	-	-	3	0.75	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	127	3.97	-	-	84	2.63	-	-	9	3.00	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	225	5.77	-	-	133	3.41	1	0.14	29	4.14	-	-	-	-	2	0.33
高知県	-	-	89	2.87	-	-	8	0.26	-	-	7	2.33	-	-	-	-	-	-
福岡県	2	0.02	138	1.31	55	0.52	535	5.10	-	-	74	3.08	-	-	-	-	3	0.20
佐賀県	-	-	28	1.22	14	0.61	112	4.87	-	-	2	0.50	-	-	1	0.17	-	-
長崎県	-	-	63	1.31	24	0.50	48	1.00	7	0.70	17	1.70	-	-	-	-	-	-
熊本県	3	0.06	104	2.12	15	0.31	104	2.12	-	-	25	2.78	-	-	-	-	2	0.13
大分県	1	0.03	96	2.67	3	0.08	83	2.31	-	-	5	1.00	1	0.10	1	0.10	1	0.10
宮崎県	1	0.03	139	3.76	13	0.35	94	2.54	-	-	11	2.75	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	1	0.02	43	0.72	5	0.08	143	2.38	-	-	10	1.67	-	-	-	-	1	0.08
沖縄県	1	0.03	5	0.15	45	1.32	96	2.82	1	0.10	11	1.10	-	-	-	-	1	0.14

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成13年31週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	95	0.20	4	0.01	24	0.05
北海道	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	1	0.05	-	-	-	-
宮城県	9	0.75	-	-	-	-
秋田県	2	0.25	-	-	-	-
山形県	1	0.10	-	-	1	0.10
福島県	6	0.86	-	-	1	0.14
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-
群馬県	1	0.10	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-
千葉県	2	0.15	-	-	2	0.15
東京都	-	-	-	-	1	0.04
神奈川県	-	-	-	-	2	0.18
新潟県	3	0.23	-	-	-	-
富山県	1	0.20	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	1	0.20
福井県	-	-	-	-	-	-
山梨県	3	0.30	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	1	0.09
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	3	0.38	-	-	-	-
愛知県	3	0.23	-	-	-	-
三重県	2	0.22	-	-	-	-
滋賀県	3	0.43	-	-	-	-
京都府	4	0.67	-	-	-	-
大阪府	9	0.75	-	-	1	0.08
兵庫県	3	0.21	-	-	-	-
奈良県	1	0.17	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-
鳥取県	4	0.80	-	-	4	0.80
島根県	-	-	-	-	-	-
岡山県	2	0.40	-	-	-	-
広島県	1	0.05	-	-	-	-
山口県	3	0.33	2	0.22	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-
香川県	2	0.40	1	0.20	-	-
愛媛県	6	1.00	-	-	-	-
高知県	6	0.75	-	-	-	-
福岡県	3	0.20	1	0.07	5	0.33
佐賀県	2	0.33	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	1	0.07
熊本県	1	0.07	-	-	2	0.13
大分県	2	0.20	-	-	-	-
宮崎県	3	0.43	-	-	-	-
鹿児島県	2	0.17	-	-	-	-
沖縄県	1	0.14	-	-	2	0.29

感染症週報 第3巻、第31号 平成13年8月17日発行  
 発行：国立感染症研究所  
 厚生労働省健康局結核感染症課  
 厚生労働省大臣官房統計情報部  
 事務局：国立感染症研究所感染症情報センター  
 〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1  
 T E L : 03-5285-1111  
 F A X : 03-5285-1129  
 U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>  
 <国立感染症研究所 感染症情報センター>  
<http://www.mhlw.go.jp/>  
 <厚生労働省>  
<http://www.forth.go.jp/>  
 <旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所)>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。